

子どもたちに読む喜びを育む読書活動

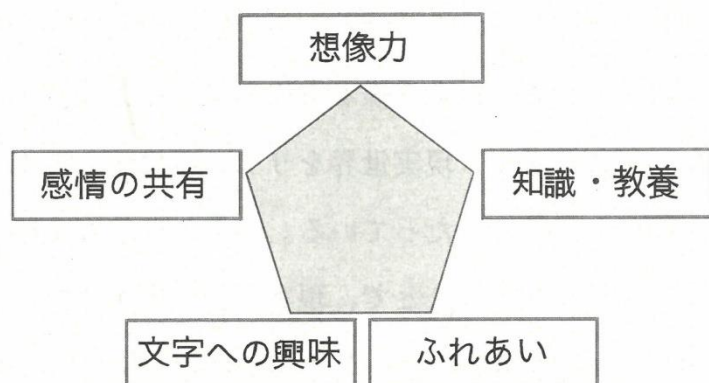
読み聞かせボランティアの取組

今年も朝の時間にボランティアの方々に「読み聞かせ」をお世話なっています。今日 6 月 21 日は 1 ～ 4 年生の学年に読み聞

かせをお世話になりました。こうした「読み聞かせ」は、多くの学校で取り組まれています。読み聞かせの教育的な意義については、様々な文献にその効果が紹介してあります。

左図のように、言葉が増える。古くから伝えられている話を知るなどの「知識・教養」、読み手と心を通わせることができるなどの「ふれあい」、文字に対する興味関心を持つなどの「文字への興味」、皆で同じ世界を共有するなどの「感情の共有」、新たな世界へ興味を広げるなどの「想像力」の 5 つの意義にまとめられているものもありました。

今日、各教室の様子を観ていても読み手と絵本をのぞき





込む子どもたちの表情から、その意義を感じ取ることができました。

また、令和4年度子どもの読書活動に関する有識者会議のまとめから、子どもの不読率（1か月間に本を1冊も読まない児童生徒の割合）は上昇傾向にあり、ただし、子どもたちの平均読書冊数は以前より増加していることから、読む子と読まない子の2極化が進んでいることがわかります。



ボランティアみなさんによる読み聞かせや市教委でお世

話になっている図書室などの環境整備を頂く図書サポーターの方々、市の電子図書の活用など、様々な方々や施設との連携で子どもたちの読書へ関心や読む喜びを育む読書活動を推進していきたいと考えています。

ボランティアのリーダーの方には今年度より学校運営協議会の委員をお世話になっており、子どもたちの成長の様子をみてもらいながら、本を通して子どもたちの力を一緒になって伸ばしていきたいと考えています。今後、高学年では、ボランティアの方にブックトークをお世話になる予定にしています。